

令和8年上野原市議会 第1回定例会席上 市長あいさつ
令和8年2月26日

本日ここに、令和8年上野原市議会第1回定例会を招集いたしましたところ、議員各位におかれましては、公私ともにお忙しい中、ご参集いただきまして、心より厚くお礼申し上げます。

本定例会の開会に当たり、提出いたしました議案につきまして、その概要を説明するとともに、私の所信の一端を申し述べ、議員各位並びに市民の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げたいと存じます。

はじめに、本年1月8日に発生いたしました「上野原市」と「大月市」にまたがる「扇山」の林野火災についてですが、焼損面積が約396ヘクタールにおよび、1997年の勝沼町の約375ヘクタールを上回り、県内では戦後最大の林野火災となりました。

消火にあたりましては、自衛隊をはじめ、山梨県、近隣都県や岐阜県のヘリコプター、県内10消防本部などからの応援、そして、地域の消防団の皆様による昼夜を分かたぬご尽力を賜り、発生から36日目の2月12日に無事鎮火を迎えることができました。関係するすべての皆様に深く感謝申し上げます。

そのような中、この度の林野火災につきましては、発生からテレビ・報道等でも大きく取り扱われ、市民の皆様をはじめ、多くの方々に大変ご心配をおかけしたところであり、市内外の多くの皆様より温かいご支援を賜りました。

また、当市をホームタウンとした3人制プロバスケットチーム「上野原サンライズ」の立川会長と昨年11月に選手を引退された長谷川さんを発起人として「パワー山梨プロジェクト」を立ち上げていただき、スポーツ界をはじめとする多くの著名人の方々から温かい応援のメッセージやご支援を賜りました。ご支援を賜りました多くの皆様に、深く感謝申し上げます。

1ヶ月以上におよぶ消火活動は、ようやく終了となりましたが、今後は、破損した資機材や登山道の修復、そして、焼失した山林の再生に長い時間を要することとなります。元の美しい山の姿を取り戻すまでには多くの課題がありますが、引き続き、「扇山」の復興に努めて参りますので、今後とも、皆様のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

さて、早いもので、私の2期目の任期も1年が経過しようとしております。市長へ就任してからの5年、今日まで、市民の皆様のご負託を受け、市政の舵取りという重責を痛感しつつ、本市の未来を拓く道筋をつけるため、昼夜を分かたず全力で取り組んで参りました。

全国的な人口減少と大都市への人口移動を背景に、当市も人口の減少が依然と続いており、特に子どもや生産年齢人口の減少が大きくなっております。

私の2期目の市政運営に当たりましては、昨年3月の定例会において議決をいただき策定した「上野原市の総合戦略」となる「上野原市みらい戦略 2025-2030」を基本方針として、取り組みを進めることとしております。

この戦略においては、市が目指すべき将来像とする地域ビジョンを掲げており、ブランドメッセージ「まだ、知らないだけ。上野原」を具現化し、実現を図る戦略とし

ております。

今年度は、私の2期目の任期と同様に、「みらい戦略」の1年目の年度となりました。これまで、戦略において優先度が高く、重点的・横断的に実施する「まだ、知らないだけプロジェクト」・「関係人口創出プロジェクト」・「官民連携・人材育成プロジェクト」と3つの重点プログラムをはじめ、「子育て・教育の循環」・「人、仕事の循環」・「暮らしの循環」と3つの基本戦略に掲げる各種事業に取り組んで参りました。

今後の市政運営に当たりましても、改めて人口の減少、特に生産年齢人口の減少という事態を正面から受け止め、まだ知られていない上野原のヒト・モノ・コトを「未知の資源 ポテンシャル」と捉え、多様な主体がつながり、資源を活かした課題解決を行うことで、市内外に挑戦と応援の循環をつくり、未知なる未来も挑戦という価値へ変えていくことを目指し、さらなる取り組みを進めて参ります。

引き続き、市民のために全力で取り組んで参りますので、議員各位におかれましても、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。